2023 年度 小委員会活動成果報告

（2024 年 2 月 5 日作成）

小委員会名	地震荷重小委員会	**主 査 名**：糸井達哉 **就任年月**：2023 年 4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	構造委員会 （荷重運営委員会）	**委員長名**：五十田 博 （**主 査 名**：森 保宏）
設 置 期 間	2023 年 4 月 ～ 2027 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 （箇条書き）	2025 年頃に予定される荷重指針及び荷重指針を活かす設計資料の次期改定のため、地震荷重外力評価の最新の学術的知見を踏まえた指針をとりまとめる。また、関連する学術課題を整理し、建築基準法を含めた国内基規準の枠組みの検討・提言について、国際的な視野・観点に基づき検討する。 初年度：地震荷重外力評価法の最新知見をとりまとめる。 ２年度：荷重指針の改定原稿案をとりまとめる。 ３年度：荷重指針を改定する。また、関連する耐震設計の最新知見をとりまとめる。 ４年度：３年目にとりまとめた最新知見について、荷重指針を活かす設計資料の原稿としてとりまとめる。	
委員構成 （委員名（所属））	**委員公募の有無**：	
	主査：糸井 達哉（東京大学） 幹事：田中 浩平（JR 西日本）　森井 雄史（清水建設） 委員：石井 透（清水建設）　境 茂樹（安藤ハザマ） 高田 毅士（原子力機構）　田村 良一（新潟工科大学） 恒川 裕史（竹中工務店）　中村 尚弘（広島大学） 中村 博一（フォーラムエイト）　平川 倫生（三菱地所設計） 福島誠一郎（リスク工学研究所）　松島 信一（京都大学防災研究所） 渡辺 哲史（小堀鐸二研究所）	
設置 WG （WG 名：目的）	確率論的地震ハザード WG：政府地震調査研究推進本部で検討が進められている応答スペクトルの確率論的地震ハザード評価結果（応答スペクトル予測地図）の建築物荷重指針への活用について検討し、骨子をまとめることを目的とする。 等価静的耐震設計 WG：荷重指針の枠組みとして提示される性能規定型の荷重評価法の考え方に基づき、応答スペクトルを基本とした建物の応答予測法を用いた耐震設計・耐震性能評価の枠組みをとりまとめる。 設計用地震動 WG：地震荷重小委員会では荷重指針の次期改定案を作成する。現行指針では、設計用地震動（動的地震動）や活用すべき情報・データの基本的な考え方が示されているが、情報とデータの理解と普及が進み、建築物の多様な要求性能に応じた動的地震動の考え方を示す必要性が高くなったため、更に具体的な活用方策に踏み込んだ記述を検討する。	
2023 年度予算	130,000 円	**ホームページ公開の有無**：無 **委員会 HP アドレス**：

項　　目	自己評価
委員会開催数	3　　回（年度内計画を含む）
刊行物 （シンポジウム資料等は除く）	
講習会	
催し物 （シンポジウム・セミナー等） *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	１．地震荷重外力評価法の最新知見をとりまとめた。 ２．荷重指針の改定原稿ドラフトを一部とりまとめた。
委員会活動の問題点・課題	